

平成28年度社会福祉法人こぼと保育園事業報告

(1)法人業務

理事会開催 5月27日(金)、10月25日(火)、12月15日(木)、2月24日(金)

監事監査 5月21日(土)

- ・社会福祉法人改革に伴い定款を変更し、法人経営組織整備一評議員会、評議員選任・解任委員会を設置した。

(2)こぼと保育園事業報告

1、5年間の入所児童推移

	H25	H26	H27	H28	H29 見込み
定員	100	100	110	110	110
0歳児	152	152	179	168	141
1,2歳児	492	486	493	503	496
3歳児	264	251	264	246	263
4,5歳児	551	552	526	528	516
計	1,459	1,441	1,462	1,445	1,416
充足率	122%	120%	110%	109%	107%

延長・一時保育児童数推移

	H24	H25	H26	H27	H28
延長保育	2,923	2,989	2,376	1,619	1,982
一時保育	1,424	872	700	439	445

2、職員動向

(単位：人)

	フルタイム(正職)	パート	計	
平成28年4月	22(13)	10	32	
平成29年3月	23(13)	9	32	
平成29年4月	24(15人)	9	33	

3 総括

① 運営

- ・運営部会議を定期化し、組織的運営に務めてきました
- ・副主任2名を初めてフリーとして各パート・クラスに入り、一緒に保育をしながら、若手保育士に伝えたり、クラス運営の相談に乗って来ました。
- ・平成28年度は109%まで子どもを受け入れました。
- ・療育センターを受診する子どもの変化、成長の姿を毎回お手紙で主治医に伝え、受診に同行してきました。
- ・毎月一回地域の親子に園を開放する「ほいくのつどい」を継続しています。参加人数は4~5組の親子と少数ですが、一時保育や入園へとつながっています。

② 保育

- ・ お天気が良ければ近隣の公園を求めてクラスやパートでお散歩に出かけたり、園庭で砂・どろんこ遊び、ボール遊びなど戸外遊びを楽しんできました。

(近隣の高齢者より、子どもたちからパワーをもらっているという声)

- ・ 年長児クラスは、例年のように道川海水浴場で遊び、野外炊飯・肝試しなど、岩城少年自然の家でお泊りして、卒園間際には思い出の園舎でお泊りしました。

また、年中児クラスは、夏・冬とも親元を離れ、仲間と一緒に保育園にお泊りしました。

- ・ 園庭にかまどを準備して、カレー、豚汁、焼きそば、さんま焼き、きりたんぼ、焼き芋などかまどでクッキングをしました。

畑で収穫した ジャガイモ(醤油バターやカレーに使用)

なす・ピーマン(みそいため) 枝豆(枝豆ごはん)

トマト・バジル(ピザトースト) 大根(炒める)

ほうれん草 (炒める) 水菜、サニーレタス(サラダに混ぜる)

きゅうり、しそ(混ぜて浅漬け)

収穫した野菜を子どもたちとクッキングして味わいました。

- ・ 年長児クラスでは、米とき当番を決め、週2回、自分たちのご飯を炊いて食べています。

③ 健康保健・安全危機管理

- ・ 大きなけがや事故、又感染症の広がりはなかったが、水痘の感染は見られた。
- ・ 嘱託医による春・秋の健康診断に向け、子どもの発達養育等について一人一人を見つめなおし、意見交換することにより、保育士が力を付け、成長できるきっかけになっています。
- ・ 年間計画に沿って毎月の避難訓練と安全点検活動を実施している。

④ 施設整備

厨房内 AC 工事・全館ワックス

園舎建築から 16 年経過。毎年修理修繕を行ってきました。

(3)平成 28 年度みつば保育園事業報告

1, 5 年間の入所児童数の推移

	H 2 4	2 5	2 6	H 2 7	H 2 8
定員	3 0			4 0	
0 歳	6 9	6 5	6 7	6 6	7 0
1, 2 歳	1 9 1	1 8 8	1 8 8	1 9 2	1 9 2
3 歳	9 5	8 8	9 6	6 3	9 6
4, 5 歳	6 9	1 5 6	1 5 7	1 5 9	1 6 2
計	4 2 4	4 9 7	5 0 8	4 8 0	5 2 0
			定員	100%	108%

	H 2 4 年	H 2 5 年	H 2 6 年	H 2 7	H 2 8
延長保育	4 2 4	7 9 6	8 4 7	8 0 0	1, 2 7 4
一時保育	2 2	4 5	8	6 9	5

- ・ 0 歳から 5 歳まで各年齢 7, 8 人、0 歳児は 9 月から 7 人となった。
- ・ 延長保育利用延べ児童が大きく増えた。

2, 職員動向

	フル（正職）	パート	計	
H 2 7 年 4 月	1 1 人(7 人)	4 人	1 5 人	
H 2 8 年 4 月	1 3 人(8 人)	4 人	1 7 人	
2 9 年 3 月	1 3 人	4 人	1 7 人	産休等 2 人
H 2 9 年 4 月	1 4 人(9)	4 人	1 7 人	産休等 1 人

フリー保育士の配置

2 8 年度退職職員 0 人、採用職員 0 人。2 9 年度採用職員 保育士 1 人

3, 総括

① 運営

- ・定員 4 0 人で、5 2 0 人 1 0 8 % の受入れを行った。
- ・延長保育、土曜保育利用が増えている。推移を見ながら保育体制を検討していく。
- ・職員処遇—基本給改善、正職員化、年度末賞与等を進めた。
- ・保護者の仕事、働き方の難儀さや価値観が多様化する中で、保育園の目標や在り方の中期計画、具体的な短期計画作成が必要だが、事務が多忙化し、日々の実務や対応に追われ 1 年が経過した。

② 保育

- ・ベランダや園庭整備により園庭に出やすい環境となり戸外遊びが広がるとともに、室内においても手づくりおもちゃや、遊びコーナー環境づくりを進め、遊びを多面的に広げている。
- ・その子その子の良さを受け止め、それぞれが力を発揮したり、チャレンジするよう励ましている。
- ・小学生になった卒園児、こぼと保育園 5 歳児との交流を継続し、遊びを楽しみながら刺激を受け、子どもの発想を広げる機会としている。
- ・障がいを抱えている子どもと育ちあう保育を進めている。
- ・全体的に、子どもの生活力や対話力が弱く、気になる行動も目立つ中、保育者一人一人の保育実践力をどう高め、どう職員同士が伝え合い、学びあうかが課題となっている。
- ・エピソード、写真を活用したクラスだより、掲示等、保育園での子どもの姿を伝える努力が広がり定着している。
さらに子どもとの応答関係を広げ、子どもの姿だけでなく、その関わりの内容を伝えられるよう工夫していきたい。
- ・園としてチーム保育をどう進めるかを深めるとともに、多様な保護者、配慮が必要な保護者へはクラス担任だけでなく、情報共有のもとに、多様な職員の関わりの中で保護者との安心・信頼の関係づくりを模索したい。

③ 健康保健・安全危機管理

- ・年間を通して風邪気味、鼻水症状の子どもはいるが出席率は高い。
- ・サーバランス、感染症の状況を把握し、随時、保護者へ情報提供するよう努めた。
- ・1 2 月 7 日、嘔吐で休みの子どもが 1 1 人となる。保健所に報告、指導を受けた。1 2 日に終息する。もちつき、みつばっこ交流の行事、中止、延期した。
溶連菌は 1 年を通して続く。繰り返し罹患があり、感染症対応の一層の強化が必要。
- ・健康保健、安全の研修をどう継続していくか工夫していきたい。

④ その他

- ・ 保育実習の受入れを意識的に援助してきた。保育実習が職員採用につながった。
- ・ みつばのひろば(園開放)参加者は少ないが、出会いの場になっており、今後も大切にしていきたい。
- ・ 子育て支援、中央地区子育てネットワークへ参加してきている。
- ・ 地域との関わり、小学校との関わりをどう方向付けていくか課題のまま残った。